

科目名	教職入門A		
担当教員名	宮川 保之、増田 吉史		
ナンバリング	KBa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

「教職入門」は、教育職員免許法に定められた教職科目(「教職の意義等に関する科目」)で、教育職員免許状を取得(大学で教職課程を履修し、指定の単位認定を受ける)ための入口にあたる教科です。講義・演習の内容は「教職の意義及び教員の役割」「教員の職務内容(研修、服務、及び身分保障等を含む)」「進路選択に資する各種の機会の提供」などです。

科目の概要

受講対象は、小学校教員を目指す1年生(児童教育学科)です。前期に、最初の教職科目として、体験や事前の予習を元に、『教師の仕事とは何か』ということをさまざまな角度から学修します。

この科目を履修した後に、教育の原理や原則に関する科目(教育学概論)、教育の社会的事項に関する科目(学校関係法規)、教育の心理に関する科目(教育心理学)を学修します。

学修目標 (= 到達目標)

具体的な内容は、国家存立の基盤としての教育を支え、発展させる教員への期待や、教職の基礎理論についての理解を深めること、教員や学校を取り巻く実情についての理解を深めること、問題解決討議法、事例研究法(インシデント・プロセス法)などを援用し、その成果をもとに新たな課題を追究できるようになることをねらいとしています。

内容

教師の使命を果たすために不可欠な資質や能力を身に付けるための基礎的な知識や技能を修得し、これを活用して、種々の教育課題を追究したり、課題解決したりすることを通して、教職の意義、教員の役割、職務内容、研修・研究等についての情報を収集し、自らの教師像を描く。自らの能力・適性について省察し、教職課程の履修を確実に進めるための方法を明らかにする。教員免許取得に向けた教職課程の履修に係る学習計画を立て、教職に就くための学内の機能の活用について、見通しをもつ。

1	教職の意義・魅力と教師像(私が出会った教師と目指す教師像、自らの生き方在り方)
2	学校教育の最新事情と教員への期待(これからの学校教育と教員としての識見)
3	教員の資格と教員養成(求められる資質・能力と教職課程の履修)
4	学校と教職の歴史(教職の成立と教職観の変遷)
5	学校教育と教員の役割(学校教育の白的、教員の役割と使命、女性教員への期待)
6	教職の特性と教職観の形成(職業としての教職の特異性と専門性の追究)
7	教員の職務とその遂行(社会の木鐸として、教員の仕事と生活の充実)
8	教員の教育活動1(目指す学校教育の質の向上と教育基本法、学校教育法)
9	教員の教育活動2(学習指導要領、教育課程の構造とその編成・実施・実施・評価・改善)
10	教員の教育活動3(学級担任としての職務と学級運営、健全育成と生徒指導の推進)
11	学校組織と職務(学校運営と絞務分掌組織、組織マネジメント)
12	教員の任免と服務規律(教員の身分、教員文化と職場環境の創造と適応)
13	教員の資質能力の向上と教員研修制度(教員研修と教育研究の意義と力量形成)
14	高度専門職業人として社会の期待に応えるための学び(教員として必要不可欠な資質・能力)

評価

事前課題及び授業を振り返っての小論文(小レポート)30点、事例研究等の成果物(小レポート)30点、最終試験(40点)を総合して、評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】事前に課題を提示します。教科書や参考図書などを参照し、問題解決討議や事例研究に必要な情報を「事前課題用紙」に整理し、これをもって授業に臨むこと。

【事後学修】修得した知識や問題解決技法等で得た知見を記録するとともに、授業で取上げた関連事項や説明を参考にし、課題についてさらに考究し、レポートにまとめ、次の講義の冒頭で提出する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 『小学校学習指導要領』(平成20年3月文部科学省告示)、 『小学校学習指導要領解説「総則」』(平成20年3月文部科学省刊)、 中央教育審議会答申『教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について』(平成24年8月28日)

【推薦書】 横須賀薫著『教員養成 これまでこれから』ジヤース教育出版刊

【参考図書】 中央教青審議会答申「新しい時代の義務教育を創造する」(平成17年10月26日) 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」(平成20年1月17日)

科目名	教育学概論 A		
担当教員名	狩野 浩二		
ナンバリング	KBa202		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、教育職員免許法に定められた「教育の基礎理論に関する科目」のうち、その筆頭に挙げられた「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想」を含む講義を行ないます。

これから4年間にわたって教職科目を受講していく、もっとも最初の1年生後期に「教育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。1年の前期に学修した「教育者論」に続いて、先生になるための勉強をすることになります。

講義では、「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、以下の内容項目にしたがって取り上げます。

教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基本事項に関する理解を深めること、受講生同士が討論しあったり、課題を追究したり、発表しあったりすることができること、テキストをもとに自己の課題を認識し、その内容を深めたり、研究したりすることができること、などがねらいです。

内容

以下、講義内容を項目ごとに書いておきます (順不同)。

テキストの構成とほぼ重なっています。

1. 学ぶことと教えること
2. 育つことと育てること
3. 学校の登場
4. 近代学校の性格
5. 日本の学校
6. 学力とは何か
7. 教科と道徳教育
8. 教育の内容と方法
9. 教育評価
10. 学校の可能性
11. 青年の教育
12. 生涯学習と社会教育
13. 子どもの権利とは何か
14. 十文字学園の創設と近代女子教育の流れ
15. まとめ

評価

講義で毎回書いてもらう学修票 (80点) と班ごとの発表 (20点) を総合し、60点以上を合格点として単位認定します。

授業外学習

【事前予習】テキストを読み、概要を把握し、疑問点を整理して、講義に持参します。

【事後学修】班発表の内容や班討論の内容を整理し、各自の振り返りレポートを作成します。次回提出して下さい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト（教科書）】田嶋一他著 『やさしい教育原理（新版）』 有斐閣アルマ

【推薦書】斎藤喜博 『授業入門（新装判）』 国土社

ルソー 『エミール（改版）上』 岩波文庫

シング 『狼に育てられた子』 福村出版

【参考図書】テキストの参考文献の他、教室で紹介します。

科目名	教育心理学A		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング	KBa203		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、初学者を対象として、学校教育に活用しうる心理学的知識の習得を目指す科目である。

教職に関する科目のうち、教育の基礎理論についての理解を深める科目である。

科目の概要

教職志望の初学者を主な対象として、学習の過程、および児童生徒の心身の発達について、教育心理学的な知見を学ぶとともに、学校教育現場における具体的な問題についての理解を深める。障害をもった子どもたちの発達、および特別な支援のあり方についても取り扱う。児童・生徒であった、そして学生である受講生に対して、「教える」、「学ばせる」、「学びを支援する」という「教師の立場」から教育・指導や学習活動を客観的かつ分析的な視点からとらえようとする態度を育むことを目指す。

学修目標

教育心理学的な考え方や知識に基づいて、学校教育における学習活動を客観的に理解することができる。さらに、よりよい学習活動を展開するための工夫や特別な支援を必要とする子どもたちの学習活動のあり方について、心理学的知見に基づいて具体的に考えることができるようになる。

内容

1. 教育心理学と学校教育
2. 学習の動機づけ(1) 動機づけのメカニズム、内的欲求
3. 学習の動機づけ(2) 内発的動機づけと外発的動機づけ
4. 学習の基礎理論
5. 教授学習における学習理論
6. 協同学習の理論と実践
7. 学級の心理学
8. 学習の個性化、個別的ニーズへの対応
9. 教育評価
10. 発達(1) 発達の一般的特徴、発達を規定する要因
11. 発達(2) 発達段階と発達課題
12. 学習者の特性理解(1) 知的能力の発達と測定
13. 学習者の特性理解(2) パーソナリティの理論と測定
14. 学習者の特性理解(3) 障がいに応じた特別支援教育
15. 学習のまとめと確認

評価

筆記試験：90点，授業内課題：10点の計100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布される課題問題をもとに教科書を読み解答をしておくこと

【事後学修】授業ないで使用/記入したプリントをノートにまとめ直す

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は教職ガイダンスなどで事前に指示する。

科目名	学校制度論 A		
担当教員名	星野 敦子、宮川 保之		
ナンバリング	KBa201		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は教員免許状取得のための必修科目であり、「教職に関する科目」の中の「教育の基礎理論に関する科目」として位置づけられている。内容として教育に関する社会的、制度的または経営的事項を含む。

科目の概要

教育制度の基本原則、教育行政制度の歴史的変遷についての理解を深め、教育基本法改正の意義について考える。さらに新教育基本法ならびに主要な教育関連法規に関わる諸問題について、具体的判例に基づいて学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

- ・我が国及び諸外国の教育制度の在り方について理解する
- ・我が国の教育行政制度の成立過程ならびに現行制度について理解する
- ・学校教育制度・教育行政制度に関わる法規の概要とその運用について理解する

内容

1	教育制度とは何か
2	教育制度と学校体系
3	我が国の学校制度
4	諸外国の学校制度
5	憲法・教育基本法と戦後教育の基本原則
6	教育行政制度 (中央教育行政組織と地方教育行政組織)
7	学校制度と児童生徒 (1) 就学・初等中等教育
8	学校制度と児童生徒 (2) 懲戒・学校事故
9	学校制度と教員・校長 (1) 職務・任用
10	学校制度と教員・校長 (2) 服務・懲戒
11	学校制度と教員・校長 (3) 研修・その他
12	学校制度と教育課程 (学習指導要領・教科書)
13	学校評価の意義と課題
14	教育制度をめぐる今日的課題
15	まとめ

評価

- 1 授業ごとの課題提出 (30%) 2 最終試験の達成度 (70%)

とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】テキストの予習

【事後学修】新聞記事の中から教育制度にかかわるものを探し考察

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「自ら学び考える教職教養 教育課程・方法・制度・法規」（松田・星野・狩野・津吹）
学文社

【推薦書】

【参考図書】

科目名	特別支援教育概論		
担当教員名	岩井 雄一、阿子島 茂美、吉川 知夫		
ナンバリング	KBa205		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修* ,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

障害児教育が「特殊教育」から「特別支援教育」へ制度的転換する中で、従前の特殊教育制度の枠を超えて、地域の通常の学校（学級）においても、特別な支援を必要とする児童生徒への対応が求められています。本科目は、特別支援教育に関する科目の第一欄の特殊教育の基礎理論に関する科目に該当します。

本講義では、特別支援教育の歴史、法制度を概観するとともに、特別な教育的ニーズのある児童生徒に関して、その障害の特性と支援方法を論じ、関係機関との連携の在り方を学びます。

学修目標は、 特別支援教育の基礎を理解すること、 特別支援教育が必要な子どもの障害と教育的支援方法を理解すること、 関係機関との連携について理解すること、の3点です。

内容	
1	特別支援教育とは
2	障害児教育の歴史と発展
3	特別支援教育の法制度 学校教育法を中心に
4	特別支援教育体制の現状とインクルーシブ教育システムの構築
5	特別支援教育における教育課程の編成
6	障害の理解と教育的支援1) 視覚障害・聴覚・言語障害
7	障害の理解と教育的支援2) 知的障害
8	障害の理解と教育的支援3) 肢体不自由・病虚弱
9	障害の理解と教育的支援4) 情緒障害・自閉症・高機能自閉症（アスペルガー症候群を含む）
10	障害の理解と教育的支援5) LD（学習障害）・AD/HD（注意欠陥／多動性障害）
11	特別支援教育の展開1) 小・中学校における校内支援と連携システム
12	特別支援教育の展開2) 特別支援学校の地域支援と連携システム
13	特別支援教育における関係機関の連携1) 保育所・幼稚園の活用とその利用
14	特別支援教育における関係機関の連携2) 医療・福祉機関の役割とその活用
15	まとめ

評価

試験による評価（70点）と中間レポートによる評価（20点）、平常の授業態度の評価（10点）により総合的に行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

授業外学習

【事前予習】シラバスを参考に事前に参考書等により内容を把握し、疑問点を整理しておくこと。

【事後学修】配布された資料により各自で振り返りを行い、内容を整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】使用しません。

【参考図書】「特別支援教育基礎論」吉田昌義、鳥居深雪編著、放送大学出版 「特別支援教育の基礎・基本」国立特別支援教育総合研究所著作、ジアース教育新社発行

【その他】必要に応じて随時紹介します。

科目名	保育内容総論		
担当教員名	岡上 直子		
ナンバリング	KBa331		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼稚園教諭・小学校教諭免許取得の必修科目である。学校教育の始まりである幼稚園教育の概要を学び、今後学修する小学校教育と一貫して見通すための基礎知識を習得する科目である。

科目の概要

幼稚園で、幼児がどのように生活し、教師はどのような指導しているか、幼稚園教育の基本的な考え方について学ぶ。特に、遊びを通した総合的な指導など、幼稚園教育の特性と小学校教育との接続について理解を深める。

学修目標 (= 到達目標)

- 1 幼稚園教育の特性、幼児期にふさわしい生活について理解する。
- 2 幼稚園教育要領に示されている領域の意味と関係性について理解する。
- 3 幼稚園教育と小学校教育の特性の違いと接続について理解する。

内容

1	幼稚園教育の基本
2	幼児期にふさわしい生活、遊びを通しての総合的な指導
3	遊びや生活を通して学ぶ (3 歳児)
4	遊びや生活を通して学ぶ (4 歳児)
5	遊びや生活を通して学ぶ (5 歳児)
6	領域と保育内容 (健康)
7	領域と保育内容 (人間関係)
8	領域と保育内容 (環境)
9	領域と保育内容 (言葉)
10	領域と保育内容 (表現)
11	遊びと環境の構成
12	預かり保育、開かれた幼稚園、子育て支援
13	幼稚園教育と小学校教育の接続
14	保育内容を充実させる教師の専門性
15	まとめ

評価

授業への取り組み10%、課題提出40%、筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】事前に提示する資料検索、発表準備 (1時間)

【事後学修】授業における学修のまとめ、提示する課題に関するレポート作成（1時間）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「幼稚園教育要領解説」フレーベル館

【推薦書】大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ編「最新保育講座 保育内容総論」ミネルヴァ書房
岡上直子・高梨珪子編「保育者論」光生館

【参考図書】授業の中で、適宜紹介する。

科目名	国語		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング	KBc256		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教諭一種，幼稚園教諭一種免許を取得するための必修科目である。

科目の概要

主体的な思考・判断・表現の基盤となる国語の能力の育成を目標とする。内容は，小学校学習指導要領国語の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に即し，具体的な表現活動を通して内容の理解を深めることをねらいとする。

学修目標（＝到達目標）

国語に関心をもち，自らの考えを積極的に表現しようとする。

表現活動に取り組む中で，国語についての認識を深める。

国語に関する基礎的な知識を実践を通して身に付ける。

内容

1	ガイダンス～言葉の特徴やきまりについて考える～
2	文字，表記（平仮名，片仮名，ローマ字）に関する学習指導
3	漢字，文字文化に関する学習指導
4	語句，語彙に関する学習指導
5	表現の工夫に関する学習指導
6	書写に関する学習指導
7	文字による表現の実際～新聞を作る～
8	文字による表現の実際～新聞を作る～
9	発音・発声，音読，朗読に関する学習指導
10	言葉のきまり（文や文章の構成）に関する学習指導
11	言葉遣い（敬語）に関する学習指導
12	音声による表現の実際～ポスターセッションをする～
13	音声による表現の実際～ポスターセッションをする～
14	伝統的な言語文化に関する学習指導～日本の古典，漢詩・漢文，故事成語～
15	まとめ～[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]の役割を振り返る～

評価

毎回の小レポート30%，演習や討論等への参加状況30%，最終的な論述レポート40%とし，総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。

【事後学修】講義の後に、小レポートの提出を求める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（東洋館出版社）

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	算数		
担当教員名	増田 吉史		
ナンバリング	KBc257		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児期から形成される数学的な概念を小学校算数科の内容と関連づけ、次の「初等算数科教育」の基礎とする。

科目の概要

算数は低学年から高学年の学年進行にしたがって段階的に高度になる。指導の系統を考察し、小学校入学前の幼児期の遊びや生活を通じた数や量の形概念獲得を知る。算数科の学びの基本と関連付けながら、小学校1年生から6年生までの内容や方法を「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。

学修目標 (= 到達目標)

幼児期から形成される数学的な概念を小学校算数科の内容と関連づけ、数学的思考や問題解決学習を体感する。

なお習熟度(学生の意志)により2クラスを設定し、少人数指導を取り入れる。ただし目標と到達目標、評価の基準は一つである。

内容

1	ガイダンス。小学校就学前後の幼児児童と算数。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
2	幼児児童の数感覚、数えること、1対1対応。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
3	幼児児童の数感覚、十進位取り記数法。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
4	幼児児童の数と集合。数の相対的な大きさ。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
5	幼児児童のものと数詞の対応、数の表し方。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
6	幼児児童の遊びの中での算数。数直線。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
7	幼児児童の数の大小と順序数。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
8	小学校算数の加法・減法の意味と計算。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
9	小学校算数の整数・小数・分数。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
10	小学校算数の乗法・除法の意味と計算。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
11	小学校算数の量と測定。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
12	小学校算数の図形。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
13	小学校算数の数量関係。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
14	小学校算数の算数的活動。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
15	振り返りとまとめ

評価

小テストや提出物(80%)、試験(20%)で評価し、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教師としての数学的思考力・問題解決力育成の小テストを自力で実行し、みんなでの練り上げ前に自分の解決をまとめる。

【事後学修】小テストで他者の考えに触れ、比較し、自分の解決を振り返える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（東洋館出版社）

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3年実践編（明治図書）

【参考図書】なし

科目名	算数		
担当教員名	日出間 均		
ナンバリング	KBc257		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

幼児期から形成される数学的な概念を小学校算数科の内容と関連づけ、次の「初等算数科教育」の基礎とする。

科目の概要

算数は低学年から高学年の学年進行にしたがって段階的に高度になる。指導の系統を考察し、小学校入学前の幼児期の遊びや生活を通した数や量の形概念獲得を知る。算数科の学びの基本と関連付けながら、小学校1年生から6年生までの内容や方法を「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の4領域で考察していく。

学修目標 (= 到達目標)

幼児期から形成される数学的な概念を小学校算数科の内容と関連づけ、数学的思考や問題解決学習を体感する。なお習熟度(学生の意志)により2クラスを設定し、少人数指導を取り入れる。ただし目標と到達目標、評価の基準は一つである。

内容	
1	ガイダンス。小学校就学前後の幼児児童と算数。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
2	幼児児童の数感覚、数えること、1対1対応。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
3	幼児児童の数感覚、十進位取り記数法。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
4	幼児児童の数と集合。数の相対的な大きさ。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
5	幼児児童のものと数詞の対応、数の表し方。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
6	幼児児童の遊びの中での算数。数直線。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
7	幼児児童の数の大小と順序数。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
8	小学校算数の加法・減法の意味と計算。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
9	小学校算数の整数・小数・分数。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
10	小学校算数の乗法・除法の意味と計算。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
11	小学校算数の量と測定。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
12	小学校算数の図形。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
13	小学校算数の数量関係。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
14	小学校算数の算数的活動。教師としての数学的思考と問題解決力の育成
15	振り返りとまとめ

評価

小テストや提出物(80%)、試験(20%)で評価し、60%以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】教師としての数学的思考力・問題解決力育成の小テストを自力で実行し、みんなでの練り上げ前に自分の解決をまとめる。

【事後学修】小テストで他者の考えに触れ、比較し、自分の解決を振り返える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説算数編 文科省著（東洋館出版社）

【推薦書】算数科コース別指導による確かな学び、1 - 3年実践編（明治図書）

【参考図書】なし

科目名	図画工作		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング	KBc259		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得することを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	身近にある材料を使った表現：段ボール
6	身近にある材料を使った表現を学ぶ：新聞紙
7	身近にある材料を使った表現を学ぶ：新聞紙
8	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ：フィンガーペインティング
9	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
10	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
11	粘土を使った表現について学ぶ
12	粘土を使った表現について学ぶ
13	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
14	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること（適宜・指示します）。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用のスケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、紹介する。

推薦書

- ・ 東山明 『絵画・製作・造形あそび指導百科』 ひかりのくに
- ・ 阿部寿文・舟井賀世子 『0・1・2歳児の造形あそび百科』 ひかりのくに
- ・ 平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	図画工作		
担当教員名	宮野 周		
ナンバリング	KBc259		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

身近な素材やものの色や形、感触やイメージ等に親しむ経験や具体的な活動を通して造形表現の楽しさや喜びを味わい、造形表現に関する知識・技術を習得することを目的とします。

素材体験、造形あそび等、実技を中心とした授業内容のため、活動しやすく汚れても良い服装で受講すること。

様々な表現や材料体験を通して、指導者となるための幅広い造形的な能力や子どもたちが育つ環境について造形を通して考え実践できる力を身につけてほしい。

内容

1	オリエンテーション：授業の内容、扱う道具、評価方法、約束事など
2	身近にある材料を使った表現：段ボール
3	身近にある材料を使った表現：段ボール
4	身近にある材料を使った表現：段ボール
5	身近にある材料を使った表現：段ボール
6	身近にある材料を使った表現を学ぶ：新聞紙
7	身近にある材料を使った表現を学ぶ：新聞紙
8	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ：フィンガーペインティング
9	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
10	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
11	粘土を使った表現について学ぶ
12	粘土を使った表現について学ぶ
13	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
14	様々な描画材料の特徴について理解し「かく」活動について学ぶ
15	まとめ

評価

授業を通して行ったこと、感じたこと、考えたことなどを一冊のスケッチブックにまとめ、さらに関連したことを参考資料などをもとに加え、自分自身のポートフォリオを作成する（60点）。また活動への取り組み、学習態度、作品の提出（40点）とし、総合評価60点以上で合格とする。

授業外学習

【事前予習】実技も含めた授業内容となるため、各自、必要な身支度、道具・材料を準備すること（適宜・指示します）。

【事後学修】教科書等を参考に授業を通して体験したことを専用のスケッチブックにまとめ理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、紹介する。

推薦書

- ・ 東山明 『絵画・製作・造形あそび指導百科』 ひかりのくに
- ・ 阿部寿文・舟井賀世子 『0・1・2歳児の造形あそび百科』 ひかりのくに
- ・ 平田智久・小野和編著 『すべての感覚を駆使してわかる乳幼児の造形表現』 保育出版社

科目名	社会		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング	KBc261		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科科目の1つである「社会」が学校教育の中で、どのような分野を担当しているのか、その位置づけと社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

科目の概要

- ・社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と大きく3つに分かれるが、各分野で取り上げられる事象（学習内容や項目）についていくつか事例的に取り上げ、その内容について考察する。
- ・社会科における資料の取扱いや活用について考察する。

学修目標

- ・小学校教育の中における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。
- ・社会科の学習内容の主なものについて事例的に取り上げ、理解を深める。

内容

- 1 ガイダンス 小学校社会科の変遷 社会科の目標と主な内容
- 2 教科としての社会科の意義
- 3 中学年社会科の学習内容 3学年・4学年
- 4 高学年社会科の学習内容 5学年・6学年
- 5 社会科学習における地理的内容（1）
- 6 社会科学習における地理的内容（2）
- 7 社会科学習における図表の活用（1） 地図の見方・活用の仕方
- 8 社会科学習における図表の活用（2） 地形図の活用の仕方
- 9 社会科学習における歴史的内容（1）
- 10 社会科学習における歴史的内容（2）
- 11 社会科学習における公民的内容（1）
- 12 社会科学習における公民的内容（2）
- 13 社会科学習の事例（1）
- 14 社会科学習の事例（2）
- 15 まとめ

評価

課題レポートなどの提出物60点、授業への取り組み（授業のまとめ、小テスト等）40点、とし

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業前に、都道府県名と地図上の位置、年代とその時代の人物のつながりをそれぞれの授業内容に合わせて準備し、理解しておく。

【事後学修】その時間に学習した内容を、学年に沿ってまとめておく。毎時間30分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社

【参考図書】

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍

科目名	社会		
担当教員名	廣坂 多美子		
ナンバリング	KBc261		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科科目の1つである「社会」が学校教育の中で、どのような分野を担当しているのか、その位置づけと社会科の目標及び内容の全体を把握し理解するものである。

科目の概要

- ・社会科は、「地理的分野」「歴史的分野」「公民的分野」と大きく3つに分かれるが、各分野で取り上げられる事象（学習内容や項目）についていくつか事例的に取り上げ、その内容について考察する。
- ・社会科における資料の取扱いや活用について考察する。

学修目標

- ・小学校教育の中における教科としての「社会」の意義や役割、目標について理解を深める。
- ・社会科の学習内容の主なものについて事例的に取り上げ、理解を深める。

内容

- 1 ガイダンス 小学校社会科の変遷 社会科の目標と主な内容
- 2 教科としての社会科の意義
- 3 中学年社会科の学習内容 3学年・4学年
- 4 高学年社会科の学習内容 5学年・6学年
- 5 社会科学習における地理的内容（1）
- 6 社会科学習における地理的内容（2）
- 7 社会科学習における図表の活用（1） 地図の見方・活用の仕方
- 8 社会科学習における図表の活用（2） 地形図の活用の仕方
- 9 社会科学習における歴史的内容（1）
- 10 社会科学習における歴史的内容（2）
- 11 社会科学習における公民的内容（1）
- 12 社会科学習における公民的内容（2）
- 13 社会科学習の事例（1）
- 14 社会科学習の事例（2）
- 15 まとめ

評価

課題レポートなどの提出物60点、授業への取り組み（授業のまとめ、小テスト等）40点、とし

総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業前に、都道府県名と地図上の位置、年代とその時代の人物のつながりをそれぞれの授業内容に合わせて準備し、理解しておく。

【事後学修】その時間に学習した内容を、学年に沿ってまとめておく。毎時間30分。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

- ・ 小学校学習指導要領解説（社会編） 平成20年8月 文部科学省 東洋館出版社

【参考図書】

- ・ 小学校学習指導要領 平成20年3月 文部科学省 東京書籍

科目名	生活		
担当教員名	清水 一豊		
ナンバリング	KBc262		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

小学校低学年の教科、生活科についての理解を深める。生活科は低学年児童の発達段階に即して誕生した教科であることを様々な資料や活動から学んでいく。幼稚園教育要領の領域 (環境) とも関連させて学びの連続性の視点からも生活科を捉えていく

科目の概要

生活科の目標や内容についての概要を理解し、生活科で展開される多様な学習活動の特性を理解し、教材や学習活動の選択肢を広げられるようにする。子ども時代を過ごした身近な社会を生活科マップとして表現することを通して身近な地域の価値を理解する。

学修目標 (= 到達目標)

幼児教育と密接にかかわる生活科の目標や内容、体験を重視する授業等の理解を深め生活科の授業をイメージすることができる。体験や具体的な活動における学びの姿やその価値に関心を持つことができる。子どもの立場に立って作品や活動を通してそれらの中に見られる子どもの思いや願いを読み取ることができる。

内容	
1	オリエンテーション 生活科教育目標 生活科授業を振り返る
2	生活科創設の経過と背景 幼児期の育ちと学び
3	生活科の目標 学年目標 幼稚園教育要領 領域 (環境) との比較
4	生活科の内容と階層
5	生活科の特色 体験・具体的な活動
6	生活科の特色 思考・表現・気づき
7	学習活動の実際 授業記録による授業分析
8	学習活動の実際 探検する
9	学習活動の実際 遊ぶ つくる
10	学習活動の実際 表現する
11	生活科と幼保小の連携・交流
12	生活科マップ 私の「原風景」 を描く
13	生活科マップ 私の「原風景」 を伝え合う
14	生活科授業における教師の役割
15	まとめ

評価

毎回の授業レポート (30%) 授業での課題レポート、課題作品 (40%) 授業への参加度 (30%) とし、総合評価

60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】各回で扱う項目について、テキストや資料を読み、理解できたこと、理解できなかったことを明確にして授業に臨むこと

【事後学修】授業中に指示した課題に取り組んだり、授業で理解できないことについて図書館等でさらに調べ、理解を深める努力をすること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】小学校学習指導要領解説 生活科編 文部科学省 日本文教出版

【推薦書】

【参考図書】 小学校生活科教科書 「生活」 上・下 光村図書出版

科目名	理科		
担当教員名	津吹 卓		
ナンバリング	KBc263		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

選択科目だが、2年の初等理科教育につながるので、履修が望ましい。

科目の概要

理科を学ぶとはどのようなことかを、観察や実験を通して体験的に学ぶ。大学生になるまでに多くの学生が抱いてしまった理科に対しての間違ったイメージを、素直な気持ちで理科に取り組むことで払拭できればと思う。とくに植物の観察は、キャンパスに生えている地域の身近な種類を半年間見続けることで、植物がどのように生きており変化するのかを体感する。

学修目標 (= 到達目標)

白紙に戻り童心に帰って、これまでの苦手意識や知識・理解は気にしないで観察・実験に素直に向き合う。そして疑問や不思議なこと・意外なことに気づき、自分の頭で「なぜだろうと」考える体験をする。ただ正解を覚えるのではなく、ナゾを解こうと素直に考える中で、習っていないなくても考えると分かるという学びの喜びが感じられ、本来の理科が見えてくる。

内容

基本はアドバイスをするが、観察・実験等は自主的に考えて進めてもらう。最も大切なことは、正解とか成功ではなく、観察や実験の結果から何が起きたのかを考えて理解し納得することである。理科を楽しもう。なお、下記の予定は季節や皆さんの状況により変化する。

授業時間外にも、発芽実験をし、また植物の変化を秋から冬まで眺めてもらう。

1	理科教育とは何か、理科を教える上で学生にとって何が問題なのかを話し合う
2	観察：自然を知るとはどのようなことか
3	秋の植物観察：観察方法の工夫
4	秋の植物観察：観察のまとめ
5	秋の植物観察：観察の発表
6	秋の植物観察：観察の発表
7	実験：化学系
8	実験：化学系
9	実験：生物・化学系
10	実験：物理系
11	実験：物理系
12	冬の植物観察：観察方法のレベルアップと春からの成長の流れ

13	冬の植物観察 : 植物の春から夏への変化の発表
14	冬の植物観察 : 植物の春から夏への変化の発表
15	まとめ

評価

実験毎のワークシート30%, 植物観察・発芽のレポート40%, 筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】キャンパスの植物は継続観察し意味を考え続ける。発表の構成の話し合い。

【事後学修】ワークシート記入・大きなレポートの作成・疑問の解消と内容の納得。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】特になし

【参考図書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編

科目名	理科		
担当教員名	津吹 卓		
ナンバリング	KBc263		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

選択科目だが、2年の初等理科教育につながるので、履修が望ましい。

科目の概要

理科を学ぶとはどのようなことかを、観察や実験を通して体験的に学ぶ。大学生になるまでに多くの学生が抱いてしまった理科に対しての間違ったイメージを、素直な気持ちで理科に取り組むことで払拭できればと思う。とくに植物の観察は、キャンパスに生えている地域の身近な種類を半年間見続けることで、植物がどのように生きており変化するのかを体感する。

学修目標（=到達目標）

白紙に戻り童心に帰って、これまでの苦手意識や知識・理解は気にしないで観察・実験に素直に向き合う。そして疑問や不思議なこと・意外なことに気づき、自分の頭で「なぜだろうと」考える体験をする。ただ正解を覚えるのではなく、ナゾを解こうと素直に考える中で、習っていないなくても考えると分かるという学びの喜びが感じられ、本来の理科が見えてくる。

内容

基本はアドバイスをするが、観察・実験等は自主的に考えて進めてもらう。最も大切なことは、正解とか成功ではなく、観察や実験の結果から何が起きたのかを考えて理解し納得することである。理科を楽しもう。なお、下記の予定は季節や皆さんの状況により変化する。

授業時間外にも、発芽実験をし、また植物の変化を秋から冬まで眺めてもらう。

1	理科教育とは何か，理科を教える上で学生にとって何が問題なのかを話し合う
2	観察：自然を知るとはどのようなことか
3	秋の植物観察：観察方法の工夫
4	秋の植物観察：観察のまとめ
5	秋の植物観察：観察の発表
6	秋の植物観察：観察の発表
7	実験：化学系
8	実験：化学系
9	実験：生物・化学系
10	実験：物理系
11	実験：物理系
12	冬の植物観察：観察方法のレベルアップと春からの成長の流れ

13	冬の植物観察 : 植物の春から夏への変化の発表
14	冬の植物観察 : 植物の春から夏への変化の発表
15	まとめ

評価

実験毎のワークシート30%, 植物観察・発芽のレポート40%, 筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】キャンパスの植物は継続観察し意味を考え続ける。発表の構成の話し合い。

【事後学修】ワークシート記入・大きなレポートの作成・疑問の解消と内容の納得。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用しない

【推薦書】特になし

【参考図書】文部科学省 小学校学習指導要領解説 理科編

科目名	知的障害の心理・生理・病理		
担当教員名	阿子島 茂美、岩井 雄一、奈倉 道明		
ナンバリング	KBc266		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

特別支援教育の中の知的障害の心理・生理・病理について基礎的な知識を学びます。講義では知的障害の発生要因・定義・分類・評価法・診断・病理等について事例を取り上げながら理解を深めます。学修目標は 知的障害の基礎を理解することができること 知的障害児の教育的ニーズと支援方法を理解することができることです。

内容

- 第1回：知的障害の医学的要因
- 第2回：知的障害の生理と病理
- 第3回：知的障害の精神と行動
- 第4回：知的障害の知的機能
- 第5回：知的障害の早期発見と療育
- 第6回：知的障害（肢体不自由・病弱）の定義・診断・分類
- 第7回：知的障害（肢体不自由・病弱）に関連する諸障害の特性
- 第8回：知的障害（肢体不自由・病弱）のアセスメント
- 第9回：知的障害（肢体不自由・病弱）の心理的特性
- 第10回：知的障害と認知特性
- 第11回：知的障害と記憶・学習
- 第12回：知的障害とソーシャルスキル
- 第13回：知的障害（肢体不自由・病弱）の療育
- 第14回：知的障害（肢体不自由・病弱）の学校における支援体制、関係諸機関との連携
- 第15回：知的障害（肢体不自由・病弱）における地域との連携

評価

試験による評価70% 中間レポートによる評価 20% 平常の参加度の評価 10%です。 60点以上を合格とします。合格点に満たなかった場合「再試験」を実施します。

授業外学習

- 【事前予習】知的障害の定義・診断・分類を調べておくこと。
- 【事後学修】知的障害児の教育的ニーズと支援方法をまとめること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

使用しません。

参考書・参考資料等

独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 特別支援教育の基礎・基本 ジアース教育新書

吉田昌義 鳥居深雪 著 特別支援教育基礎論 放送大学教育振興会 NHK出版

下司昌一編集「現場で役立つ特別支援教育ハンドブック」日本文化社

科目名	肢体不自由の心理・生理・病理		
担当教員名	吉川 知夫、奈倉 道明		
ナンバリング	KBc267		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要：肢体不自由児はその起因疾患や病態、心理的な発達特性に関してきわめて多様で個人差がある。個に応じた指導を展開するには、肢体不自由児の障害や発達実態について医学、心理学等多角的な視点から把握する必要がある。本授業では、肢体不自由教育に携わる際に必要となる基礎知識を習得することを目的として、肢体不自由の起因疾患と病態について概説する。また、運動発達や認知発達、社会性、コミュニケーション発達を中心に肢体不自由が子どもの発達に及ぼす影響について概説し、教育実践上の問題を具体的に検討する。

学修目標：1．主要な肢体不自由の起因疾患と病態について理解すること、2．肢体不自由児の発達について多面的に理解すること、3．社会的視点から関係領域と連携した発達支援を理解することの3点である。

内容	
1	運動機能の発達と運動障害の発生
2	肢体不自由の起因疾患と病態の特徴
3	脳性まひ等の脳障害にみられる随伴障害
4	肢体不自由者の生命・健康問題と医学的ケア
5	脳性まひの生活態様と二次的障害の防止
6	障害と環境（ICFを中心にして）
7	肢体不自由児の心理的特性の理解 1
8	肢体不自由児の心理的特性の理解 2
9	肢体不自由と認知発達
10	肢体不自由と社会性の発達
11	肢体不自由と言語・コミュニケーションの発達
12	肢体不自由者の障害受容のプロセス 1（途中障害と先天性障害）
13	肢体不自由者の障害受容のプロセス 2（途中障害と先天性障害）
14	肢体不自由児の保護者の心理理解とその対応
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（30点）、筆記試験（30点）、毎回のリアクションペーパー（20点）、通常の受講時の態度（20点）を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】関連する文献等を読んでおくこと。

【事後学修】授業時に出題する課題について調べ、理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【その他】必要に応じて授業で紹介する。毎回授業時に関係資料を配付する。

科目名	病弱の心理・生理・病理		
担当教員名	坂田 紀行、奈倉 道明		
ナンバリング	KBc268		
学 科	人間生活学部（K）- 児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は教員免許（特別支援学校）資格取得のために必要な科目で、その中で病弱教育の基礎的理論を学ぶことになります。

科目の概要

授業は講義形式により、心理・生理・病理について理解を深め、実際の子どもの学習や生活の場面を映像で視聴して心理的な対応のあり方を学びます。機会を作って特別支援学校（病弱校）も見学します。

学修目標（＝到達目標）

- ・病弱児の認知、言語、社会性、知能などの基本的な特性、実態について説明できる。
- ・病弱児の心理的特性について説明できる。
- ・心理的特性を病弱教育の中の全体活動と自立的活動の中でどのように活かすかについて習得する
- ・特別支援学校（病弱校）の現状を把握して説明できる

内容

1	病弱児の実態の把握 1（病弱校の実態、認知、言語の実態）
2	病弱児の実態の把握 2（心理的不安、対人関係）
3	病弱教育の目的・目標とその意義
4	病弱教育の歴史的変遷と現状における課題
5	特別支援教育における病弱児教育とその課題（他の種別との関係）
6	病弱教育の教育課程
7	病弱児の心理的な面の指導
8	病弱児の生理について：小児の発達
9	病弱児の病理について：実態把握
10	病弱児の病理について：検査、評価
11	病弱児の病理について：治療法
12	病弱児の指導上の配慮
13	病弱児の自立活動のねらい
14	病弱児の自立的活動の展開
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（40点）学修目標に関するペーパー-テスト（40点）、授業への参加度（20点）により、評価を行い、60点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合は「再試験」を行います。

授業外学習

【事前準備】新聞、TV等で病弱関係の情報があったら掴んでメモしておく。

【事後学修】授業で配布された資料を各回ごとにファイルして整理・保存する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】病気の子どものガイドブック：全国特別支援学校長会編著、ジアース教育新社発行

ファイリア：全国特別支援学校長会編著、ジアース教育新社発行

特別支援教育基礎論：大南英明、緒方明子、吉田昌義 放送大学教育振興会発行

【参考図書】適宜、資料を教室で配布します。また、BDビデオ、PW等視聴覚教材を取り入れます。

科目名	表現活動（基礎）		
担当教員名	狩野 浩二、久保田 葉子		
ナンバリング	KBd169		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品（斎藤喜博 / 詩、近藤幹雄 / 曲）「利根川」に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。また、夏に行われる免許状更新講習や新座市3年経験者教員研修会においても、発表する機会を持ちます。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

第1回目の時に、取り上げる作品などについて説明します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）とし、総合して評価します。60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。特に腹式呼吸法の練習を毎日しましょう。

【事後学修】講義中の練習を踏まえて、歌唱や朗読の練習をします。振り返りのレポートを最後に作成します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1・2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	表現活動（応用）		
担当教員名	狩野 浩二、久保田 葉子		
ナンバリング	KBd369		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	幼稚園教諭一種免許状 / 小学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

この科目は、教育職員免許法に定められた「教科又は教職に関する科目」の一つであり、選択科目です。小学校・中学校・幼稚園などの先生になりたいと思う学生の皆さんが選択必修科目として受講することを想定して開設しました。

この時間には、総合表現活動（朗読や歌、からだで表すことなどを組み合わせた活動）のために創作された作品「かたくりの花」 横須賀薫・詩、梶山正人・曲 に取り組む予定です。

練習の様子によっては、近くの小学校などに出向いて、児童や先生方に見てもらう会を持ちたいと思っています。

みんなで歌ったり、朗読したり、からだを動かしたりすることにより、心をひらいて誰とでも楽しく交流できるような力をつけることを目的にします。そして、子どもたちの表現活動を指導する際の技術についても、同時に紹介します。

仲間同士で協力し合い、作品を仕上げること、心をひらき、実感を込めて表現すること、作品の解釈を持ち、イメージ豊かに表現すること、などが目標です。表現活動概論（3年後期）の受講生がみなさんを指導する場面をつくります。先輩たちとともに、表現活動の指導法について学びあって欲しいと思います。

内容

以下、取り上げる内容について列記します（順不同）。

前期において「表現活動（基礎）」を受講した人がいた場合には、内容が変わります。

下記は一般的な内容です。実際には、参加メンバーに応じて変更します。

1. 教師の表現力 脱力、呼吸法
2. 教師の表現力 声
3. 教師の表現力 朗読
4. 表現活動の指導 呼吸法
5. 表現活動の指導 行進
6. 表現活動の指導 ステップ
7. 表現活動の指導 身体表現
8. 表現活動の指導 集団朗読
9. 表現活動の指導 総合表現
10. 表現活動の指導 オペレッタ
11. 表現活動の指導 歌唱、合唱
12. 表現活動の指導 演出と構成
13. 表現活動の指導 子どもの表出をとらえる
14. 表現活動の指導 まとめ
15. まとめ

評価

毎時間の取り組み（ 協調性20点、 主体性20点、 教材解釈20点、 表現力20点、 創造性20点 ）を総合し

て評価します。

授業外学習

【事前予習】歌唱や朗読の練習をします。腹式呼吸法の練習を毎日します。

【事後学修】講義中の課題を踏まえて、更に朗読や歌唱表現の練習をします。最終発表会のあとで、振り返りのレポートを作成します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教室で随時資料を配付します。

【推薦書】横須賀薫他編著 『心をひらく表現活動（1）～（3）』 教育出版

【参考図書】梶山正人 『かたくりの花』 一莖書房

梶山正人 『子どものためのオペレッタ1.2』 一莖書房 他、教室で随時紹介します。

科目名	教職基礎演習		
担当教員名	増田 吉史、清水 玲子、宮川 保之、日出間 均 他		
ナンバリング	KBd170		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

- 小学校教員の職務や担任教師の動きを「学校教育計画」をもとに理解するとともに、学校現場での実際を知る。
- キャリア教育について学び、本学児童教育学科学生が東日本大震災以降、福島県双葉町や埼玉県加須市への支援を「さつまいもプロジェクト」として進めてきた実践を継続し、キャリア教育を実体験する。なお、この科目は本学COC事業と強く関連し貢献する。

科目の概要

大学に入学したばかりの1年生に、小学校教員の職務の基礎的な事項を、できるだけ実感できるように演習的に進行する。学校現場における学校行事や学校安全の取り組みが、計画的に、組織的に実施されていることを学校現場の実践をもとに具体的に理解していく。教育基本法、学校教育法を改正して、進められている「キャリア教育」について体験を通して理解を深め、企画や運営を進める力を伸ばしていく。

学修目標（＝到達目標）

計画書を作成したり、学校現場に学んだりすることにより、小学校教員の職務を理解し、自分の適性についての判断材料や判断基準を得る。

内容

- 学校の1年を、学校教育計画をもとに理解する。
- 担任教師の1年の実際の取り組みを、学校現場の調査・観察をもとに体験的に学びを進める。
- 学校現場における学校行事や学校安全の取り組みの調査・観察をもとに模擬指導を体験する。
- キャリア教育が学校現場で取り組まれている背景を理解する。
- 児童教育学科の学生が東日本大震災以降、継続的に進め社会的に高い評価を得てきたさつまいもプロジェクトや福島県双葉町への支援を継承し、本学COC事業との連関をはかる。
 - ・ 新座市の特産品を目指す「指月喝」の材料となるさつまいも栽培に協力する地域貢献
 - ・ 商品としての価値のあるさつまいもを原料としたお菓子の製造・販売
 - ・ 新座市のイベントに参加し、お菓子の販売。イベントを盛り上げ、地域の方々との交流
 - ・ 収益はすべて義援金とし、東北支援につなげる社会貢献

上記指導担当教員以外にも健康栄養学科高橋京子教授、児童教育学科青木助手の指導協力を得る。

評価

毎時間の学習票の作成（20点）、計画書・報告書の作成やプレゼン発表の実施（40点）、まとめのレポートの作成（40点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】授業で扱う内容の前提となる事項を確認し、関連する資料に目を通し、計画力を養う。

【事後学修】芋プロやボランティアやインターンシップを実際に体験し、自己評価をし、まとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

小学校学習指導要領, 小学校学習指導要領解説(総則編), 小学校学習指導要領解説(特別活動編)

【推薦書】「小学校キャリア教育の手引き」（教育出版）

【参考図書】

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子、清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子、清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子、清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり、清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 真理子、清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年		ク ラ ス	1Gクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年		ク ラ ス	1Hクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子、清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Jクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子、清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Kクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子、清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Lクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	1Mクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年		ク ラ ス	1Nクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Pクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Qクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年		ク ラ ス	1Rクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年		ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Gクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	浜野 範子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Hクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	加倉井 佳世子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Jクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Kクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	矢部 尚子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Lクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	市川 節子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Mクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Nクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり、清水 玲子		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	1Sクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名			
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年		ク ラ ス	1Tクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	2Pクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法 (音楽)」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験 (70%) 通常の授業態度 (30%)、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

[テキスト]バイエル教則本 (全音楽譜出版) ソナチネ1 (全音楽譜出版)

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	ピアノ奏法演習		
担当教員名	渡辺 かおり		
ナンバリング	KBd177		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	2Qクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

ピアノ奏法を学ぶことにより、音符やリズムなどを理解して楽譜を読む力をつけ、「初等音楽科教育」や「保育内容の指導法（音楽）」の科目の基礎を学ぶ講義である。

科目の概要

初心者から経験者まですべての学生が、読譜力をつけ初見で演奏できるように、また演奏する喜びを得られるよう個人の技量に合わせてピアノの技術を向上させる。

学習目標

小学校の教育現場や保育現場で最低限でも必要なバイエル・ソナチネ程度のピアノ演奏技術を学び、身につけることが学修目標である。また経験者はさらに技術が向上するよう上級課題をめざす。

内容

ピアノの技術向上のため個人レッスンの演習形式をとる。

ピアノ未経験者や初心者は、「バイエル教則本」から始め、半期で終了することを目標とし、さらに「ソナチネ1」程度レベルまで進むことを目標にする。

経験者は、技術をさらに向上させるために、個人のレベルに合わせて課題曲を担当教員と相談の上、選曲する。

個人レッスンの形式をとるために、毎回の課題曲は自己練習を行うことで進めていく。

なお、学内のピアノ練習室がいつでも自由に練習することが可能である。

評価

実技試験（70％）通常の授業態度（30％）、三分の二以上の出席することで評価を受けることができる。

授業外学習

【事前予習】授業で扱う内容に関連したテキストの指定箇所の練習

【事後学修】授業で行った内容の復習

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[テキスト]バイエル教則本（全音楽譜出版） ソナチネ1（全音楽譜出版）

適宜、テキスト・プリントを使用し、授業で紹介していく。

科目名	書写・文章表現演習（基礎）		
担当教員名	富山 哲也、綾井 桜子		
ナンバリング	KBd278		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

小学校教員として文字指導を行うための基礎を身に付ける。

科目の概要

小学校国語の書写に関する指導内容に即し、文字指導に必要な用具の扱いや運筆、文字についての知識等を学ぶ（実技を含む）。また、チョークによる板書や学習プリントの作成など、教師の書く文字についてもそのポイントを学習する。文章表現では、口語文、文語文の違い、優れた表現、分かりやすい表現など、文章を書くための基礎を身に付けるほか、問いに正対して書くなど、小論文を書く基本を学習する。

学修目標（＝到達目標）

文字表現に関心をもち、進んで文字や文章を書こうとする。

文字を手書きすることの基本的な知識を身に付け、板書やプリント作成に生かす。

文章を書くための基礎を身に付け、小論文を書く。

内容

以下の内容を進捗状況により、15週で進めていきます。

- ・ガイダンス～文字指導の概要～
- ・姿勢や筆記具の落ち方、文字の形
- ・点画の長短や方向、接し方や交わり方、筆順
- ・チョークを使った板書
- ・文字の組み立て方
- ・点画の種類、毛筆と硬筆
- ・学級だよりの作成
- ・文字の大きさや配列
- ・様々な筆記具
- ・書写の学習指導案の作成
- ・まとめ

評価

演習や討論等への参加状況30％、作成物の状況30％、最終的な論述レポート40％とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】課題により事前準備を必要とするものがある。

【事後学修】感想や意見を記録し報告する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『小学校学習指導要領解説国語編』（東洋館出版社）

【推薦書】教室で紹介する

【参考図書】教室で紹介する

科目名	ことばのしくみ		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBe379		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目である。統語論・意味論・形態論・語用論等の言語学の諸分野については「英語学」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学Ⅰ・Ⅱ」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

科目の概要

対象言語としては主に英語を取り上げながら、心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方を学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

心理言語学・社会言語学・通時言語学の諸分野に関する基本的な概念や考え方が理解できる。

内容

1	言語学のめざすもの
2	言語とは何か？
3	(人間)言語の特性
4	人間言語と動物言語
5	言語の習得<心理言語学(1)>: 心理言語学のめざすもの
6	言語の習得<心理言語学(2)>: 言語習得の特徴
7	言語の習得<心理言語学(3)>: 母語の習得 (英語の自然発話資料を中心に)
8	言語の習得<心理言語学(4)>: 母語の習得 (英語の実験発話資料を中心に)
9	言語の習得<心理言語学(5)>: 母語の習得 (形態論・統語論・意味論の各モジュールの習得)
10	言語の多様性<社会言語学(1)>: 社会言語学のめざすもの
11	言語の多様性<社会言語学(2)>: 使用地域による違い
12	言語の多様性<社会言語学(3)>: 使用者の性別による違い
13	言語の多様性<社会言語学(4)>: 使用者の年齢・属する社会による違い
14	言語と脳<神経言語学>: 人間は脳のどの部分を使ってことばを発し、理解するのか
15	まとめ

評価

期末試験70%、小テスト (毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います) 30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。また、深く学びたいと思った点については推薦書・参考文献を読むこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

『言語の獲得と喪失』，橋田浩一他著，岩波書店，3400円．

科目名	英語学		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング	KBe380		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目である。言語学の関連分野については「ことばのしくみ」で、音声学・音韻論の分野については「英語音声学Ⅰ・Ⅱ」で扱うので、4科目すべてを履修すれば英語学・言語学に関する主要な概念・考え方を学ぶことが可能となる。英語の教職課程を履修している学生は4科目すべてを履修すること。

科目の概要

英語を科学的に分析・研究する対象として扱い、英語学の中核をなす形態論 (英語の単語の構造)、統語論 (英語の文の構造)、意味論 (意味の構造) を中心に、さらに語用論などの分野も含めて、英語学の基本的な概念を学ぶ。適宜、大多数の学生の母語である日本語と比較することにより英語という言語の持つ特徴を浮き彫りにできるようにしたい。

学修目標 (= 到達目標)

(i) 形態論、統語論、意味論、語用論の基本的な概念をまなぶ、 (ii) 言語を学習の対象ではなく科学的な分析の対象として捉えることができる

内容

以下の各トピックに関して基本的な概念・考え方等の説明を講義形式で行う。理解を深めるための演習や課題の提出、毎授業の最初に前回の授業の復習小テストを行う。

1	言語を科学的な分析の対象として捉える方法
2	形態論 (1) : 形態論のめざすもの
3	形態論 (2) : 語の内部構造、形態素
4	形態論 (3) : 形態素分析
5	形態論 (4) : 語形成規則 (偶発的な語形成規則)
6	形態論 (5) : 語形成規則 (少し規則的な語形成規則)
7	形態論 (6) : 語形成規則 (規則的な語形成規則)
8	統語論 (1) : 統語論のめざすもの
9	統語論 (2) : 句・文の内部構造
10	統語論 (3) : 句構造規則
11	統語論 (4) : 変形規則
12	意味論 (1) : 意味論のめざすもの
13	意味論 (2) : 語や文の意味の記述
14	語用論 : 言語はどのように使用されるのか
15	まとめ

評価

期末試験70%，小テスト（毎回授業のはじめに前回授業の復習テストを行います）30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】事前に配布されたハンドアウトに目を通すこと。

【事後学修】ハンドアウトと授業用フォルダに保存されたパワーポイント資料を読み、復習をすること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する。

【推薦書】『ことばの科学ハンドブック』，郡司隆男・西垣内泰介編，研究社，2800円． 801/K

『言語研究入門』，大津由紀雄・池内正幸・今西典子・水光雅則編，研究社，3500円． 801/G

『文法』，益岡隆志他著，岩波書店，3400円． 801.08/1/5

【参考図書】『言語学の方法』，郡司隆男・坂本勉著，岩波書店，3000円．

『言語の科学入門』，松本祐治他著，岩波書店，3400円．

科目名	英語音声学 (子音と母音)		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KBe381		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目。英語の教職課程を履修している学生は「ことばのしくみ」・「英語学」・「英語音声学II」とあわせ4科目すべてを履修すること。なお、「英語音声学II」では、この科目よりも時間の長い発音 (音連続・リズム・イントネーション) に注目して応用練習をします。話しことばに関心のある人や英語の発音をよくしたい方にも履修をお勧めします。

母語の個々の音 (母音・子音・半母音) の発音は無意識に習得している知識ですが、発音に障がいのある人の支援をする時や、外国語の学習・教育において、また、朗読など声を専門的に使う活動においては、音声学の知識が役立ちます。なじみ深い外国語である英語の発音を日本語と比較することにより個々の音の特徴を理解します。

英語と日本語の個々の音の発音をしているときの口の中の各部分の動きを考えて、図などで違いを説明できるようにし、発音記号も読み書きできるようにします。さらに、自らの英語の発音を改善し、英語の聞き取り力も向上させます。

内容

この教科書の30のユニットは6つの章に分かれていますが、第2, 3章の子音 (しいん) と母音 (ばいん) をていねいに練習していきます。音節・単語・文章の部分も重要ですが、要点を押さえて速く進みます。

1	1. 音声とつづり -- 2. 音声を生成する -- 3. 子音と母音
2	4. ゴールを決める -- 5. 閉鎖音と鼻音
3	6. 摩擦音
4	7. 破擦音と接近音 -- 8. 子音のまとめ -- 9. 音声学の効用
5	10. 母音
6	11. 前舌母音と後舌母音
7	12. 二重母音と中舌母音
8	13. 音声記号
9	14. 音節 -- 15. 子音連結
10	16. 音節と言葉遊び -- 17. 英語の音のパターン -- 18. リスニング練習
11	19. 単語の強勢 -- 20. 弱形 -- 21. 音素と異音
12	22. 音韻規則 -- 23. 発音練習の諸方法 -- 24. 英語のリズム
13	25. 文の強勢 -- 26. 連結音 -- 27. 同化
14	28. イントネーション (抑揚) -- 29. 音調のパターン -- 30. 自己意識と発音
15	【まとめ】

評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。

(1) まとめの成果： 60%

(2) 平常点： 40% (小テスト(適宜)、予習、実技録音課題提出)

授業外学習

【事前学習】毎週1時間程度の予習として、教科書の対訳を参考に説明英文を読み、付属音声の発音をまねてみてください。

【事後学修】授業で扱った部分の音声が無理なく発音できるようになるまで付属音声を何度もきいてまねてください。人によりですが毎週30分は必要と思います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】米坂スザンヌ/田中洋也 著 『Discovering English Sounds -- Phonetics Made Easy (発音指導と音声学の融合)』 センテージ ラーニング.

【推薦書】竹林滋/清水あつ子/斎藤弘子 著 『改訂新版 初級英語音声学』大修館書店.

科目名	英語音声学（発話実践）		
担当教員名	設楽 優子		
ナンバリング	KBe381		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目。英語の教職課程を履修している学生は「ことばのしくみ」・「英語学」・「英語音声学Ⅰ」とあわせ4科目すべてを履修すること。なお、「英語音声学Ⅰ」では、この科目よりも時間の短い個々の音（母音・子音・半母音）を詳しくみます。

英語の自然なリズム・イントネーションは、子供か勘のいい人しか身につかないのでしょうか？ この科目では、配置を音声学的に非常によく練った音声（資格試験のリスニング問題程度の速さです）を大量に観察することで、法則性を発見しながら真の勘を養います。十分に聴いてから、沢山発音して、「発音できればきき取れる」をモットーにしましょう。

従来のリスニング教材には、説明のための実例音声は少なく「あとは空欄のきき取りがついているだけ」というものが多いのですが、この教科書の特徴は、リスニング（＝じっときいて観察）の時間が多い点にあります。文字情報なしの音声の意味を理解するという行為は、空欄補充よりも、むしろ英語字幕と音声情報とを同時に得ることに近いと思います。この教科書にも空欄きき取り問題はありますが、完成した音声をその後も聴いて繰り返す練習が大切です。文字的情報が頭の中に自然に流れる状態を目指して、流暢な発音と聴解能力の向上を狙います。

内容

教科書の出版社によると、TOEICでいえば400～500点の人向けとあるのですが、「勉強する価値があるレベルの単語が時々出てくるだけ。空欄きき取りよりも、その後のリピートが大切」と考えてください。

母音は1回の授業で2 units (8頁)しますが、それ以外は毎回1 unitの練習をします。

1	Unit 1 英語のアクセント（単語・句）
2	Unit 2 英語のリズム（内容語と機能語）
3	Units 3&4 紛らわしい母音
4	Unit 5 紛らわしい子音(1)
5	Unit 6 紛らわしい子音(2)
6	Unit 7 紛らわしい子音(3)と半母音
7	Unit 8 つながって聞こえる音（連結）
8	Unit 9 変化して聞こえる音（同化）
9	Unit 10 聞こえなくなる音(1)（単語間の脱落）
10	Unit 11 聞こえなくなる音(2)（単語内の脱落・短縮形）
11	Unit 12 英語のイントネーション(1)
12	Unit 13 英語のイントネーション(2)
13	Unit 14 World Englishes
14	Unit 15 数量表現
15	まとめ

評価

以下の割合で点数化し、総合評価60点以上を合格とします。

- (1) まとめの成果： 60%
- (2) 平常点： 40% （小テスト（適宜）、予習、実技録音課題提出）

授業外学習

【事前学習】毎週1時間程度の予習として、ダウンロード音声を聴いて下さい。

【事後学修】授業で扱った部分の音声が無理なく発音できるようになるまで音声を何度もきいてまねてください。人によりますが毎週30分は必要と思います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 杉森幹彦・大塚朝美・杉森直樹・Paul Evans共著, _English Sounds, English Minds: Introduction to the English Sound System_ （『英語音声の基礎と聴解トレーニング』）, 金星堂.

【推薦書】

Judy B. Gilbert, _Clear Speech Student's Book with Audio CD: Pronunciation and Listening Comprehension in American English_ [Student Edition]3版 (2004), Cambridge University Press . ISBN-13: 978-0521543545

科目名	ことばへの気づきワークショップ		
担当教員名	向後 朋美、設楽 優子		
ナンバリング	KBe382		
学 科	人間生活学部（K）-児童教育学科（KB）		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（英語）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

英語教諭資格関連分野の英語学に関する科目である。「ことばのしくみ」と「英語音声学I」で学んだことをふまえるため、この2科目を履修していることが履修の条件となる。また、少なくとも「英語学」「英語音声学II」と同時か、または履修後に履修することが望ましい。

科目の概要

ことばのしくみや働きについての関心を深め、ことばの楽しさ、豊かさに気づくことができるように、協同学習を取り入れた授業を行う。また、小学校外国語活動とのつながりや活用法についても解説を加える。

学修目標（＝到達目標）

対象言語としては、まずは母語である日本語、次に英語と比較しながら、両者の仕組みや働きの共通性と相違性を明示的に示せるようになることを目指す。また、外国語の発音は、どの程度までその言語の母語話者の発音に近付ける必要があるのかを、日本語・英語学習の両方について考察し、国際社会でさまざまなニーズを持った英語学習者に選択肢を示せる力を養う。受講生自身の英語の到達目標も考え、優先順位をつけた練習を主体的に行う。

内容

1	ガイダンス：向後
2	文字と発音：設楽
3	母音字フォニックス：設楽
4	子音字フォニックス：設楽
5	リズムと抑揚（挨拶と教室英語）：設楽
6	リズムと抑揚（文法チャンツ）：設楽
7	リズムと抑揚（パターンプラクティス等）：設楽
8	語のしくみ（同音異義語・複合語）：向後
9	語のしくみ（短縮語・混成語）：向後
10	語のしくみ（ワークショップ形式）：向後
11	文のしくみ（語順とまとまり・あいまい文）：向後
12	文のしくみ（ワークショップ形式）：向後
13	ことばの法則と例外：向後
14	ことばの法則と例外（ワークショップ形式）：向後
15	まとめ：向後

評価

平常点（課題、授業への参加度）50%、授業内の発表・教材作成50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】ワークショップ形式の授業の前には、発表できるような形の教材を作成の準備をすること(1時間程度)

【事後学修】演習の内容を踏まえて、発表教材の構想を練っておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【参考図書】

大津由紀雄・窪園晴夫(2008), 『ことばの力を育む』, 慶應義塾大学出版会.1600円+税

大塚謙二・胡子美由紀(2012), 『生徒を英語好きにする入門期の活動55（目指せ！英語授業の達人19）』, 明治図書.2060円+税

その他、授業内で指示する。

科目名	英米文学の流れ		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング	KBe383		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

英米の歴史を背景に両国の文学の流れを概観し、それぞれの時代の特徴と文学の関わりを、小説を中心にしながらいくつかの項目に絞って概説します。そして文学作品を単なる知識として歴史の中に位置付けるのではなく、各時代の潮流の中で作品が人間の生の営みをどのような形で反映し、また新しい時代をどのように切り拓いていったのかを探ってみます。とくに小説は結果が重要なのではなく、結末に至るまでの過程を味読しながら思索すべきものです。その意味からもこの講義が聞きっぱなしに終わらないで、実際に作品に当たってその面白さを直に味わいながら、さまざまな人間像についての理解を深める契機になることを望みます。そのために原則として邦訳のある作品で話を進め、また名場面をビデオで鑑賞したりして、作品を身近なものにします。

内容

《英文学》

- (1) 英米の歴史の流れおよび英語の特徴
- (2) 欽定英訳聖書と英文学
- (3) エリザベス朝演劇とシェイクスピア (人間の発見)
- (4) 18 世紀・・・小説の始まり (写実と諷刺の精神)
- (5) ゴシックロマンスとジェーン・オースティン (非日常と日常)
- (6) ローマン派詩人 (感情の解放)
- (7) ヴィクトリア朝の小説 (ディケンズとブロンテ姉妹)
- (8) イギリス児童文学 (ルイス・キャロルとベアトリックス・ポター)
- (9) 世紀末文学 (審美主義)
- (10) 20 世紀「意識の流れ」の小説 (ジョイスとウルフ)
- (11) 生命の哲学 (ロレンスとフォースター)

《米文学》

- (12) 19 世紀のピューリタニズムと小説 (ホーソンとメルヴィル)
- (13) 20 世紀初頭の自然主義文学 (アメリカの悲劇)
- (14) 20 年代の「失われた世代」 (虚無と退廃の戦後文学)
- (15) 30 年代の社会主義文学とその後 (現代文明批判)

評価

課題レポート 50 点、授業への参加状況 50 点の割合で評価をし、60 点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】次回のテーマについてネット等を使い出来る範囲で調べ来て、それを一口感想の用紙に書いてもらいます。

【事後学修】授業で扱った内容について短い質問を出しますので、その返答を考えて来るようにします。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

毎回、プリントを配布します。

参考書については授業時に適宜紹介します。

科目名	英米小説と女性		
担当教員名	島村 豊博		
ナンバリング	KBe384		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

近代英米小説に見る女性像の変遷についての理解を深め、それぞれの時代に新しいタイプの人間像が誕生する経緯を捉えながら、その今日的な意味を検討する。

19、20世紀の英米小説に登場するヒロインだけでなく重要な役割を演ずる脇役の女性も取りあげて、女性としてのさまざまな生き様、有りようを、時代背景と照らし合わせながら、時代を牽引する新しい生き方のできる女性、逆に旧弊に囚われた遅れた生き方しかできない女性に焦点をしばって、具体的な場面設定の中で捉える。 その結果として人間の多様な生き様を実感しながら、今日に生きる英知をさぐる。

内容

毎週、19、20世紀の英米小説を一作ずつ取り上げ、ストーリーの流れの中で女性の生き方を検討する。象徴的ないしは劇的な場面を映像で印象付けるようにする。

授業終了時に一口感想を指定の用紙に書いて提出してもらう。

授業計画

- 第1回： ガイダンス
- 第2回： ジェーン・オースティン『高慢と偏見』
- 第3回： シャーロット・ブロンテ『ジェーン・エア』
- 第4回： ウィリアム・メイクピース・サッカレー『虚栄の市』
- 第5回： チャールズ・ディケンズ『デイヴィッド・コパフィールド』
- 第6回： ナサニエル・ホーソン『緋文字』
- 第7回： ジョージ・エリオット『ミドルマーチ』
- 第8回： ヘンリー・ジェイムズ『ある婦人の肖像』
- 第9回： トマス・ハーディ『テス』
- 第10回： E・M・フォスター『ハワーズ・エンド』
- 第11回： D・H・ロレンス『息子と恋人』
- 第12回： D・H・ロレンス『チャタレー夫人の恋人』
- 第13回： ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』
- 第14回： マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』
- 第15回： マーガレット・ドラブル『礮臼』

評価

課題レポート50点、授業への参加状況50点の割合で評価をし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 次回のテーマについてネット等を使い出来る範囲で調べ来て、それを一口感想の用紙に書いてもらう。

【事後学修】授業で扱った内容について短い質問を出しますので、その返答を考えて来る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

テキスト

毎回、プリントを配布する。

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング	KBe385		
学 科	人間生活学部 (K) - 児童教育学科 (KB)		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

学科選択科目として、異文化コミュニケーションの特徴を学ぶ。

異なる文化的背景を持つ人と出会ったとき、私たちはうまくコミュニケーションができないと感ずることがある。それは、手段 (言語、非言語) が充分でないからなのか、それとも、考え方 (文化) が違うからなのだろうか。授業では、特に英語圏の文化を比較の対象としながらコミュニケーションの方法と文化のつながりについて考え、異文化間のコミュニケーションの特徴を探る。さらに、「ネット社会」の急速な発展など最近の社会の変化が、異文化コミュニケーションのあり方に及ぼしている影響についても考えてみたい。

文化の違いとは何かを理解すると同時に、自文化についても考え直すきっかけとする。

内容	
1	異文化コミュニケーション研究の歴史 (1) : 外なる異文化
2	異文化コミュニケーション研究の歴史 (2) : 内なる異文化
3	コミュニケーション : 何を伝えるか
4	コミュニケーション : どうやって伝えるか
5	異文化 : 文化とは何か
6	非言語コミュニケーション (1) ; 動作
7	非言語コミュニケーション (2) : 外見
8	言語によるコミュニケーション (1) : 英語と日本語
9	言語によるコミュニケーション (2) : 思考
10	コミュニケーション・スタイル
11	異文化理解
12	メディアと異文化
13	国際社会における異文化コミュニケーション : 国際公用語としての英語
14	多文化世界 : 異文化の融合と共生
15	まとめ

評価

レポート (50%)、試験 (50%) で総合評価。

授業外学習

【事前予習】身の回りで異文化と感じたことを記録しておく

【事後学修】授業での説明を参考に、それが異文化と感じた理由を確認する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】鍋倉健悦 編著 『異文化間コミュニケーションへの招待』北樹出版、1998年

【推薦書】石井敏 他 『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣選書 1997 年 361.54/I

【参考図書】古田暁 他 『異文化コミュニケーション・キーワード 新版』有斐閣双書 2001 年